あさがお通信

12号
平成30年
12月1日
発行

医療法人社団 中川会 呉中通病院・グリーン三条 広報誌

中川会 理念

医療法人社団 中川会は医療と福祉を通じて
職員全員で呉地域で一番の施設を目指します。
http://nakagawakai.jp/

中川会

理事長挨拶

医療法人社団 中川会
理事長　得能　佑美子

この度の平成30年7月豪雨により犠牲となられた方々に衷心よりお悔やみ申し上げるとともに、被害を受けられた皆さまに対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

平成 最後の夏。7月7日（土）朝

目を覚ますと突然、「日常」からその後数ヶ月に亘る「非日常」の環境へと、一変する事になりました。

前日の夜は大雨特別警報が発令されたにもかかわらず、朝方には雨も止み呉中通病院周辺の風景は一見いつもと変わらない「日常」に見えました。

しかし、その後の報道により県内外の被害の現状を知り、何年もかけて作り上げた大切な物が一瞬にして、いとも簡単に破壊された事実を目のあたりにして、自然の前では今も昔も無力であると痛感いたしました。

午後からは呉市の広範囲で断水となり、グリーン三条も貯水槽が空となる非常事態でしたが、7月9日（月）から断水が解除となる7月12日（木）まで、断水を免れた呉中通病院からポリタンクで水を運び危機を乗り越えることができました。

災害発生時には断水の問題だけでなく、被災による入退院の困難な患者さま、道路や鉄道の寸断による通勤や帰宅困難な職員、物資の調達などの対応に追われる日々となりました。

災害発生後も、交通状態が不安定の中、1日も休診をせず外来診療を行い、入院患者・入所者さまに通常に近い形で療養生活を送っていただく事が出来たのも、職員一人ひとりの使命感と職員間の結束の賜物だと感心いたしました。

また、呉地域の医療・介護が機能不全に陥ってしまう不安の中、広島県等からの公的な救援物資並びに、取引させて頂いている企業の皆さまからの心の籠もった支援物資に対し、この場をお借りして感謝申し上げます。

秋の気配を感じ始めた9月21日（金）、天皇皇后両陛下が愛媛県西予市と広島県呉市を訪問され被災者の人々を励ます姿に落涙し、温かい言葉に勇気づけられたことを思い出します。

年内にはJR三原駅から安浦駅間が復旧し、半年ぶりに呉線が全線運転再開の見込みとなり、交通機関等ライフラインの混乱から復旧へは着実に進んでおります。

しかし、呉市内には未だ災害により仮設住宅での生活を余儀なくされている方々も多くいる中、復旧から復興へは、なお道半ばと言わざるを得ません。

山々に爪痕として残した多くの赤茶けた山肌が、紅葉の色づき開始とともに徐々に目立たなくなっています。来年の春には一斉に芽吹くことを祈念しております。

中川会として、何ができるのか、何をすべきか。この夏の豪雨災害は突きつけられた思いです。これからも私たちが出来ることを一歩ずつ着実に行い、微力ではありますが地域に貢献できればと思っております。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

呉中通病院

リハビリみらいプロジェクト

～ 回復期リハビリテーション病棟の在り方 ～

皆さまのお力添えのおかげで呉中通病院は、2018 年 8 月 1 日を以って開院 11 周年を迎えました。

同時に回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）に転換して 11 年経過しました。

そこで今回は、理想的な回リハ病棟の在り方に向けた当院の取組みとこれまでの経緯についてご紹介させて頂きます。

振り返ると、転換当初はまさに“生みの苦しみ”を痛感しつつ、暗中模索でなんとか体制構築に勤しみました。

地域包括ケアシステム構築に向けた取組みが呉地域でも活発になる中、当院でも 2014 年にリハビリテーション（以下、リハビリ）の重要性を再認識し、365 日リハビリ提供体制を目指した取組みを開始しました。

最初に人材を確保するための積極的なセラピスト採用活動や教育体制の見直し、業務効率化を推進しました。

当時のリハビリ職員は 33 名でしたが、現在は 64 名（PT：40 名、OT：13 名、ST： 8 名、アシスタント： 3 名）まで大幅に拡大し、人的資源は充足しました。

また、2017 年 1 月には高まるニーズを受け、手狭になったリハビリスペース（理学療法室、作業療法室、言語聴覚室）を約 2 倍の広さに拡充しました。

リハビリスペース拡充（ハード面）と人的資源の充足（ソフト面）により、リハビリ提供体制が充実した今、“回リハ病棟の質” を高めることを目的として「リハビリみらいプロジェクト」を立ち上げました。

当プロジェクトは、「マクロの視点で、呉市地域包括ケアシステムの中で当院がどのような役割を担い、果たしていくべきか。ミクロの視点で、回リハ病棟がどう在るべきか」ということを検討しております。

回リハ病棟では、多職種協働が中核的な要素の 1 つであり、協業と分業が重要です。

当院では、入院から退院後までの流れを大きく 4 時期に分け、各時期の各専門職の動き、回復期の協業の在り方について検討を重ねています。

しかし、業務プロセスを職種別に区分する際、課題が大き過ぎて議論が難しいことが判明しました。そこで、各分野別に課題を振分け、課題解決しようと考え、 8 つの分科会を立ち上げました。

各分科会は多職種で構成し、積極的（月 1 回以上）に開催しております。多職種の意見を聞くことで、お互いの理解を深めることもでき、円滑なチーム医療にも一役買っています。

まだまだ道半ばですが、回リハ病棟を有する病院として尽力し、呉市における地域包括ケアシステムへ微力ながら貢献していきたいと存じます。これからも皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

呉中通病院　院長
岡崎　慎哉

呉中通病院　児玉安紀先生、秋の叙勲授章さる

児玉安紀先生

11月3日付けで発表された秋の叙勲で、元国立病院機構東広島医療センター　院長　児玉安紀(やすのり)先生(現呉中通病院脳神経外科顧問)が瑞宝中綬章(ずいほうちゅうじゅしょう)を授章の発表がありました。

11月6日には宮中の春秋の間にて、天皇陛下の拝謁を賜りましたとのことです。

この名誉ある授章に対して医療法人社団中川会全員より心からお祝い申し上げたいと思います。

（呉中通病院　統括院長　中川　俊文）

グリーン三条　グリーン三条6周年を迎えて

おかげさまでグリーン三条が開設して丸6年が経過しました。これもひとえに皆さまのご支援のおかげと思っております。

グリーン三条は介護療養型老人保健施設といい一般の老人保健施設とは少し異なります。一般的な老人保健施設は病院と自宅との中間施設ですが、介護療養型老人保健施設は要介護度の利用者が適切なケア、介護を受けながら人生の最後まで生活をしていくことのできる施設です。利用者が最後までその人らしく生活をしていただくために各職員全員が一致団結して日々考え努力しております。

グリーン三条が10年、20年と地域の皆さまに愛される様、これからもより良い介護を目指して、頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

グリーン三条　施設長
髙山　正三

呉中通病院　地域連携室だより

呉中通病院
地域連携室副室長
三村　純代

私が地域連携室に配属されて早いものでもうすぐ2年が経過します。4月からはあたらしいメンバーも増えてにぎやかになりました。今年は西日本豪雨災害という大きな出来事があり、みなさんそれぞれ大変だったと思います。当院では、断水は免れましたが、職員の帰宅・通勤困難や、患者様への食事が備蓄品の提供となるなどの影響がありました。職員の協力と、みなさんのお陰でどうにか乗り切る事が出来ました。ありがとうございました。また、こういう時こそ、地域連携室の力が必要だと実感しています。

色々、ご迷惑をかけていると思いますが、これからもご支援、ご鞭撻をよろしくお願いします。

呉中通病院

内科特集

現在内科を中心にかかりつけ機能の強化を図るため、さまざまな取組みを行っております。今年度の取組みをご紹介させていただきます。

呉中通病院　内科医師
谷口　良彦

禁煙外来について

呉中通病院内科では、禁煙外来を 10 月 1 日から実施しております。

健康保険を利用して『禁煙外来』を行うには、

・ニコチン依存性が強く（初診時アンケート用紙を利用して確認します）、

・1 日の喫煙本数に喫煙年数を乗じて得られた数が 200 本以上の方。

・直ちに禁煙することを希望されている方で、『禁煙治療のための標準手順書』に従った禁煙治療の説明を受けて『禁煙宣言』ができる方（治療を受けることを文書にて同意できる方）などの条件をクリアされ、合計 5 回の外来受診を 12 週間の間に受けていただくことが必要です。初回診療も予約は不要で随時受け付けております。自分が禁煙外来の保険診療に該当するかどうかよくわからない方は受付にお気軽に相談してみてください。

新たに血圧脈波検査装置を導入

4 月から血圧脈波検査装置により①動脈の硬さ、②血管年齢、③動脈の詰まりなどが測定できるようになりました。四肢の血圧を同時に測定することで、動脈硬化の程度を数値化します。

非侵襲的な検査で、短時間（15 分程度）で血管年齢・血管の硬さ（CAVI 値）、下肢動脈の狭窄・閉塞（ABI 値）など測定が可能です。この検査を行うことにより動脈硬化（血管の老化）の進行程度や血管障害の発症リスクなどを分かりやすく説明する事が出来ます。今後は、内科、脳神経外科、神経内科、整形外科分野における様々な動脈硬化性病変の早期発見や血管病変の発症予防などに対して活用が期待されます。

ご興味のある方は、外来診療科までお問い合わせください。

編集後記

この夏、JR呉線が復旧するまでの3ヶ月、15年ぶりに車通勤を経験することになりました。

何時になったら次の信号までにたどり着くのか分からない状況は辛いもので、月日が経つにつれ車の中でラジオを聞く事が習慣となりました。定番メニューは、朝の情報番組、帰りのナイター中継。カーブが強くて精神衛生的にも本当に良かったと昨年以上に実感すると共に、ラジオ情報の持つ魅力を再発見することになりました。

情報は単に知っているだけではダメで、その情報を基に具体的に行動に移すことが重要と言われます。今後も、皆さまが行動に移すことが出来る生きた情報を発信することで、地域の連携強化を図って参ります。（森光）

医療法人社団 中川会 呉中通病院
〒737-0046 呉市中通1丁目3番8号
〔JR呉駅より徒歩5分〕
TEL(0823)22-2510　FAX(0823)22-2514
http://nakagawakai.jp/

介護老人保健施設 グリーン三条
〒737-0821 呉市三条1丁目3番14号
〔JR呉駅より徒歩7分〕
TEL(0823)23-0303　FAX(0823)23-0642

2018.12.1000

9月から脳卒中の後遺症である「痙縮」に対し、「ボツリヌス療法」を始めました

痙縮（けいしゅく）

- 筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手足がこわばったり、つっぱったりします。
- 片まひと同じ側の手足にあらわれることがほとんどです。

ボツリヌス療法

- つっぱったり、こわばっている筋肉に、直接お薬を注射します。
- 注射した筋肉のつっぱりやこわばりをやわらげます。

脳卒中では、運動機能障害のひとつに痙縮（意図していないのに筋肉が強く緊張してしまう・つっぱる状態）という症状があります。筋肉が緊張しすぎて手足を動かしにくくなったり、筋肉に痛みがでたりします。生活の妨げになることもあります。

- ✓ 脇が閉じたり、肘が曲がったりして、着替えに時間がかかる
- ✓ 手首が曲がり、着替えをするとき、袖に手を通しにくい
- ✓ 指が伸びずに、爪を切りにくい
- ✓ 手のひらを洗うのに苦労する
- ✓ 足の関節がガクガクと震えて困る
- ✓ 歩いていると、腕が上がってくる
- ✓ 足のかかとが浮いて、歩きにくい
- ✓ 歩くとき、足の指が曲がって痛い
- ✓ 足がねじれて、靴や装具が履きにくい、歩きにくい

このような症状に悩んでおられる患者様もいらっしゃいます。

ボツリヌス毒素療法は、ボツリヌス菌が作り出すタンパク質を注射することにより、筋肉に分布している神経の働きをブロックすることを利用して筋肉の過度の緊張・つっぱりを和らげる治療法です。

このボツリヌス療法を当院でも平成 30 年 9 月から開始いたしました。

注射の効果は 3 ～ 4 ヶ月持続しますので、その間によく運動やストレッチを行う必要があります。

リハビリと組み合わせて行わないと効果がでない治療ですので、当院では 2 週間の入院の初日に注射し、2 週間リハビリ（自宅で行う自主訓練の指導も含む）を行い、以後は外来でフォローする予定です。

当面は、当院に入院・通院されている患者様から行っていく予定ですが、いずれは外来へ御紹介いただけるような体制を構築したいと考えております。

呉中通病院　副院長　中川　豪